

## Y2-15

## 前橋胃ろうネットワークの活動

前橋赤十字病院 NST

○小川 哲史、佐川 俊彦、友野 正章、  
中井 正江、林 昌子、立川 厚子、  
後藤 幸子、高坂 陽子、伊東 七奈子、  
池谷 俊郎

当院では、2000年に地域連携室を設置し、積極的に地域連携に取り組んでおり、2002年には地域医療支援病院に認定された。2003年のNST設立後は、栄養療法の病診連携を進めてきた。主な取り組みは、1. 栄養療法に関する勉強会や講演会の開催。2. 転院や退院時に、通常の紹介状の他に栄養に関するサマリー（NSTサマリー）の作成。3. 2006年の摂食嚥下胃瘻外来の開設などである。2008年7月、前橋医療圏で「前橋胃ろうネットワーク」を設立した。参加施設は、前橋医療圏内の5つの急性期中核病院を始め、介護リハビリ病院、開業医、訪問看護ステーション、ケアマネージャーなど84施設である。それぞれの施設別の役割と機能は、造設および緊急時対応が6施設、交換が9施設、夜間診療（往診）が14（10）施設、夜間訪問看護が5施設、摂食嚥下機能の評価とリハビリ施設が8施設である。これまでの主な取り組みは、地域合同の勉強会や症例検討会などの定期的な開催、地域連携クリニカルパスなど共通のツールを活用、患者や家族の意見を反映させるための患者・家族会の設立などである。現在、各施設の機能や連絡先を明示したネットワーク図を作成し、ホームページの開設を準備している。また2009年6月から、同ネットワークと前橋市歯科医師会、群馬摂食嚥下研究会との連携も開始した。今回、前橋胃ろうネットワークの活動を報告する。

## Y2-16

## 栄養管理実施加算と摂食機能療法における経済的効果

前橋赤十字病院 NST

○友野 正章、内林 俊明、板倉 孝之、  
町田 忠利、高坂 陽子、伊東 七奈子、  
田中 俊行、小川 哲史、池谷 俊郎

【はじめに】当院では2003年5月から全科型のNSTを稼働し、多職種による栄養療法を行っている。2006年4月の診療報酬改定により「栄養管理実施加算」が新設された。また同時期から「摂食機能療法」の算定方法が改定し、治療開始日から3月以内は連日の算定が可能となった。当院では2006年6月より全入院患者を対象として栄養管理実施加算の算定を行っているため、経済的効果を中心に報告する。

【栄養管理方法】加算開始以前は、病棟看護師が全入院患者に対して褥瘡危険因子と栄養状態のスクリーニングを行い、「NST管理」と評価された患者のみNSTが栄養管理を行っていた。加算開始後からは、新たに口腔状態の評価も入院時スクリーニングの項目に加え、全入院患者に栄養管理を実施した。摂食機能療法は、栄養スクリーニングで「嚥下障害」がある患者で、医師が摂食嚥下訓練が必要と判断した症例を対象に、摂食機能療法診療計画書を作成し、ST、看護師、歯科衛生士が中心に訓練を行った。

【結果】栄養管理実施加算を算定した症例は、2006年が8,330例、2007年が12,211例、2008年は12,012例で、うちNSTが管理した症例は、各々、6.3%、5.0%、5.8%であった。診療報酬は2006年が約138万点、2007年が約208万点、2008年が約205万点であった。摂食機能療法は2006年が236例（延べ1823回）で、2007年が264例（延べ1917回）で、2008年が506例（延べ4482回）であった。診療報酬は2006年が約34万点、2007年は約35万点、2008年は約83万点であった。

【まとめ】加算の開始に伴い、NST管理以外の患者も栄養管理の対象とし、摂食機能療法を含む栄養管理を行った。その結果、院内全体の栄養療法の標準化による医療の質の向上とともに大きな経済的効果が得られた。